

# バドミントンの未来を応援。



元バドミントン選手

## 打田 しづか

>>PROFILE 大府市出身。神田小、大府中を卒業後、岡崎城西高校に進学。高校3年生の時に全国高校総体シングルス・ダブルス準優勝。2008年から日本ユニシスに所属し、2013年、ヨネックスオープンジャパンで準優勝。2014年3月、市スポーツ功労者表彰を受賞した。



日本ユニシス所属時代。海外で行われた試合でのヘアピンショット(本人提供写真)

### 小

学4年生から実業団チームまでの18年間、選手としてバドミントンに情熱を注いできた打田しづかさん。

日本ユニシス所属時代に出場した2013年ヨネックスオープンジャパンでは、準決勝で2011年世界選手権金メダリストの王儀涵選手(中国)を破る金星をあげて決勝進出。決勝では山口茜選手に惜しくも敗れましたが準優勝に輝きました。「決勝で負けたことは悔しいですが、強豪選手を相手にいい試合をして、決勝まで勝ち残れたことは自信になります」と当時の悔しさと満足感の入り混じった思いを振り返ります。打田さんは、その輝かしい功績から、平成26年3月に市スポーツ功労者表彰を受賞しています。

### 遊び感覚で始めたバドミントン

バドミントンを始めたのは「母が友人にファミリーバドミントンに誘われ、一緒にやって行っただけできっかけです。当時は、遊び感覚だったので、本格的にバドミントンを始めたのは、『ほりーあつぷジュニア』に入団した小学4年生の時です」と話します。『ほりーあつぷジュニア』が結成されたのもこの時で、打田さんは1期生にあたります。

小・中学校時代、バドミントンに打

ち込んできた打田さんにとっての思い出の場所は、たくさん汗を流してきた市民体育館現在…メディアアス体育館おおよび体育センターといえます。

打田さんが一番印象に残っている試合は平成19年のインターハイだそうで、「団体・シングルス・ダブルスと連戦が続き、初めて試合中に足が動かなくなったことを覚えています」と語ります。試合の激しさを思わせる言葉で、後にも先にもこの経験はなかったそうです。「大府はバドミントンが盛んで、部活でできることが幸せなこと

です。バドミントンをしたことがない子も気軽に始められることに魅力を感じます」と、遠征などで全国津々浦々を巡ったからこそ分かる、スポーツのまち大府の良さを語ります。

### 厳しい練習を乗り越えバドミントンに愛情を注ぐ

バドミントン一筋で突き進むことができた理由を聞くと「練習はきつかったけれど、それを超えるくらいの楽しさがありました」と、バドミントンへの愛情を話します。そんな打田さんは

平成28年に引退後、月に数回バドミントンの講習会や、お世話になった『ほりーあつぷ』などで練習のお手伝いをしていきます。「大府から世界で活躍する子が生まれるように願い、応援しています」と地元の後輩の将来を楽しみにしています。

「たくさんの方にお世話になり、感謝しています。バドミントン界が盛り上がるように、できることからお手伝いし、頑張っているプレーヤーの皆さんを応援しています」。打田さんは感謝の気持ちと現役選手たちの活躍を願うメッセージを残しました。



1



2



3



4

- 1 2014年3月、少年少女バドミントン教室で中学生にバドミントンを教える
- 2 小学6年生の時のダブルスでの試合
- 3 中学2年生の全国大会
- 4 高校2年生の時、愛知県チームとして出場した第5回日本バドミントンジュニアグランプリ2006

(2)(3)(4)本人提供写真)



▲2014年4月1日号



▲2007年10月1日号

広報おおぶ平成19年10月1日号では、高校3年生の打田さんにインターハイのシングルスとダブルスで準優勝したことに付いてのインタビュー記事を掲載しました。

市スポーツ功労者表彰受賞時の広報おおぶ平成26年4月1日号では、2013年ヨネックスオープンジャパンでの準優勝時の試合の振り返りやリオデジャネイロ五輪への出場に向けた意欲などを掲載しました。